




発表項目 (行事名)	 <b>ほっかいどう未来チャレンジ基金</b> <b>「みらチャレ通信」Vol. 33の発行について</b>		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>北海道の未来を担う若者達の海外挑戦を応援するため、平成28年12月に創設した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」。この基金により海外に留学した方々の活動状況などをお伝えする月刊紙「みらチャレ通信」Vol. 33を発行しました。</p> <p>■掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生向けの音楽授業動画を作成</li> <li>・留学生達の活動報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>学生留学コース：有働さん</li> <li>スポーツコース：向井原さん</li> <li>文化芸術コース：清水さん</li> </ul> </li> <li>・第2期生の留学成果報告</li> </ul> <p>■主な配布先          応援パートナー（企業、団体等）、道内大学等          ※基金ホームページにも掲載しています。</p> <p>■発行時期          毎月下旬</p>		
参考	ほっかいどう未来チャレンジ基金 公式Facebook「みらチャレ」 <a href="https://m.facebook.com/mirachalle/">https://m.facebook.com/mirachalle/</a> 基金生の海外での活動状況等を随時掲載しています。  公式Facebookページ みらチャレ 		

報道（取材） に当たって のお願い	助成対象者の海外留学の状況を情報発信することにより、道内の若者の海外挑戦に向けた機運醸成と、寄附などオール北海道での応援体制の構築を図っていきたくので、積極的な報道にご協力よろしく申し上げます。		
他のクラブ との関係	同時配付	同時レク	(場所)

担当 (連絡先)	総合政策部政策局総合教育推進課 工藤 電話：ダイヤルイン 011-206-7380 (内線 23-109)		
-------------	--	--	--

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！6月末時点で、第3期生3名が海外留学中です！※うち2名が新型コロナウイルスの影響で一時休止中

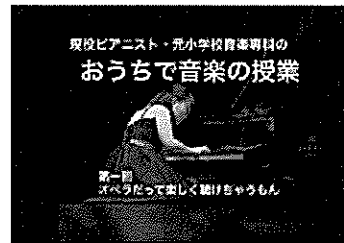
## ○小中学生向けの音楽授業動画を作成

ハンガリーに留学中の第3期生文化芸術コース清水柚衣さんが、ご自身の小学校教員としての経験を活かした「音楽授業動画」を作成し、配信しています。

ハンガリーでは3月に非常事態宣言が発出され、活動や外出などが制限されている中で、清水さんは、北海道のために自分にも何か出来ることはないかと思い、小中学生向けの音楽授業動画を作成されました。多く子どもたちの目に触れ、お役に立てればと思います。

【音楽授業動画「おうちで音楽の授業」】

- 第一回オペラだって楽しく聴けちゃうもん <https://youtu.be/XbyfCDrtZyI>
- 第二回“身体の音楽”バレエの魅力 <https://youtu.be/Yi0Uws2pEE0>
- 第三回ちびっこだって“構成”わかるもん <https://youtu.be/pqWUg-jvI0c>



## ○留学生たちの活動状況

### 学生留学コース

**第3期生 有働 篤人さん【留学先】フィンランド 【留学期間】2019年9月～2020年5月（9か月間）※留学終了**  
札幌を世界のデジタル観光都市にするため、先進的なゲーム制作やソフトウェア開発を学ぶ

DEMOLAで行っていたスマホ向け学修支援アプリTUUDOの改良プロジェクトは引き続きオンラインで行われ、利用者が利用状況に関するデータ収集が重要であるため、利用者のプライバシーに配慮しつつ、収集可能なデータの種類を精査し、TUUDOを改良するために必要なものだけに絞り込みプロジェクトに盛り込みました。

Fingersoft社での活動で制作中のプロトタイプも形にすることができましたが、リモート活動で時差があることにより、こちらの作業についてのフィードバックを得るまでに相当の時間を要し、制作中のプログラムに不具合があった時に報告しても見落としが発生するなど、コミュニケーションに苦労しました。

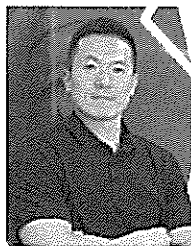
留学は5月末で終了し、ゲームを産業として国レベルで推し進めているフィンランドで多くのことを学ぶことができました。新型コロナウイルスの影響で多くの価値観が変わった今、クリエイターの活動がどのようなインパクトを与えるべきなのかなど、一人のクリエイターとして留学したからこそ考えるべきことは多くあるので、今後は留学経験を生かし、クリエイターの側面から北海道に貢献していきたいです。



### スポーツコース

**第3期生 向井原 洋平さん【留学先】アメリカ 【留学期間】2019年7月～2020年7月（12か月間）※一時休止で帰国中**  
アスレティックトレーナーに必要な最新スポーツ医学の知識と技術を学び、道スポーツ界に貢献

5月はリモートでの選手のリハビリ対応やオンラインでの勉強会に加えて、大学院の期末試験と修士プロジェクトの提出がありました。プロジェクトは大学院教授陣の審査を受け、先日、無事に受理されました。通常であれば教授陣への対面での発表がありますが、コロナ禍を受けて発表は中止となり、代わりにエグゼクティブ・サマリーというプロジェクトの概要を提出しました。



今回のプロジェクトでは、昨年末に取り組んだ肩関節周囲筋群の筋活動を測定した研究から小円筋が優位に働くポジションと動作からエクササイズを2つ設定し、その2つのエクササイズを実施した群の投手の方がシーズン中の投球腕のコンディションを維持できると仮定し、コントロール群の投手との比較研究を行いました。コロナ禍によりサンプルの総数がさらに減少し、2群においてシーズン前とシーズン中のKJOCスコアに統計的な優位差は見られませんでした。投球障害の予防を目的とした小円筋のトレーニングに関する研究は学術的に乏しく、引き続き研究していきたいと思っています。

### 文化芸術コース

**第3期生 清水 柚衣さん【留学先】ハンガリー 【留学期間】2019年9月～2020年8月（12か月間）**  
ハンガリーでリスト音楽院のプログラムに参加し、演奏活動を通じ、北海道の音楽環境やレベル向上を目指す

5月はアカデミーで知り合った声楽家の方と、自宅の庭でアウトドアコンサートを行いました。お世話になっている大家さんのために、日本歌曲やイタリア歌曲を演奏し、ピアノソロでもメンデルスゾーンの小品を演奏しました。

緑の中、太陽の下で演奏できて、大変気持ち良かったですし、こうして時々人に聴いていただけるのは本当にありがたいと感じます。

現在アカデミーは夏休みで公式には授業はありませんが、冬のゼメスター（学期）の間、別の授業と時間が被っていて受けられなかったハンガリー語の補講を週に2回オンラインレッスンにて受講しています。また、ピアノのレッスンに関しては対面レッスンは未だ再開されていないため先生に課題曲と締め切りを指定してもらって期日までに録音を提出するという課題に取り組んでいます。

現在は、毎週月曜日には演奏動画、毎週水曜日には授業動画をYouTubeに投稿しています。



○第2期生の留学成果報告 ～R元年度に全ての基金生が帰国した第2期生の成果報告を紹介します～

学生留学コース 星野 愛花里さん【留学先】キルギス【留学期間】2019年1月～2019年12月（12か月）  
農産物等の輸出入の可能性を探り、北海道の農業に貢献

【留学概要】

キルギスにおける地域農産物の生産・流通についての調査実施と北海道の農業の多様性を探るため、キルギス協同組合連盟においてキルギス全体の農業を把握し、キルギス国内外の農産物流通を把握しました。また、イシククリ農協で農民組織の経営概要を把握し、農家の経営や生活状況を把握し、有機認証制度の導入経緯と手続きの利点等も学びました。

【留学を通じて感じたこと】

農民は「遊牧時代の自給経済+出稼ぎ」で生活をしており、商品の生産体制は不安定である。農民組織は存在するものの買取契約などがない限り動かないので、貿易する場合は技術移転や商品開発をこちら側から提案する必要があると思いました。

認証制度は輸出のために整えているところであり、現時点では外国の認証制度をドナーの支援などで獲得している。流通機構が整っていないが、大陸の真ん中に位置しており、やり方次第では様々なところに販売が可能であると思いました。

【帰国後の活動・今後の目標】

中央アジアとのビジネスを考える

シーベリーの加工でキルギスと協力関係にある土幌高校で、キルギスの農産物と北海道の農産物の協力で意見交換をしたいです。話し合いをもとにキルギスと北海道で協力できるビジネスモデルを考え、キルギスに提案したいと思っています。



【現在北海道大学農学院研究生】



スポーツコース 梅村 拓未さん【留学先】ドイツ【留学期間】2018年7月～2019年6月（11か月）  
北海道の子ども達の運動能力向上に向け、「バルシューレ」を学ぶ

【留学概要】

子どもの発達段階を考慮し、楽しみながら運動能力を伸ばすボール運動指導プログラム「バルシューレ」について、プログラムを創設したドイツのハイデルベルク大学や地域のクラブなどで実践的に学びました。

【留学を通じて感じたこと】

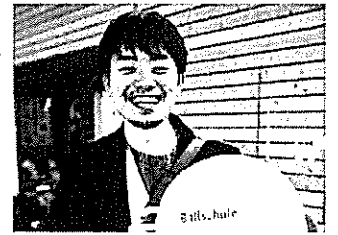
多くの指導者、子どもたちとコミュニケーションをとる中で、子どもたちとどのように関われば、どの能力を伸ばすことができるかを肌で感じました。サッカー教室では、指導するという経験もさせていただき、子どもたちへの声かけがどのくらい子どもたちの次の挑戦を喚起し、道具の置き方や色がどのように子どもの能力向上につながるのかを身をもって感じました。

【帰国後の活動・今後の目標】

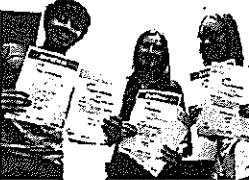
バルシューレの理念を用いたスポーツ指導と指導者の育成

所属するSports Life Iwamizawaで行っているバルシューレ教室及びサッカー教室において、バルシューレの理念を用いて子どもたちに指導を行っています。ドイツで学んだ子どもたちとの関わり方、メニューの構成などを応用しています。

今後も研究を続け、北海道で子どもたちの運動に関わる指導者に対し研究者という立ち位置から働きかけ、指導者の育成に取り組んでいきたいです。



【現在Sports Life Iwamizawaで活動中】



基金生の活躍機会や、活用できる場の提供などございましたら、下記（総合教育推進課）に御連絡ください。

応援パートナーの皆様

(2020年6月現在・敬称略)


有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 坂詰 貴司 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明  
武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 山田 義勝 その他匿名希望の個人・企業5者

北海道総合政策部政策局総合教育推進課

TEL: 011-206-7380 (直通) FAX: 011-232-6313

E-mail: mirai-jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



基金生のチャレンジ活動  
を応援しています